

## ティーチング・ステートメント

所属 横浜商科大学

名前 東本 裕子

作成日 2020年9月17日

### 【責任】

商学科、英語教育センターに所属し、英語コミュニケーションや異文化理解を中心とした教育・研究活動を行っている。主たる教育活動は、英語関連科目「English Current」「異文化理解と実践英語」「海外から見た日本文化理解と英語コミュニケーション」「国際理解と異文化教育」「UPB Japan Visitコラボレーション科目」の担当と、学内外の国際交流活動（英語カフェ、国際交流の広場、Summer Intensive English Program、Japan Visit、ロータリー国際理解イベント対応など）、留学生の支援（留学生交流会・旅行など）、写真部、サブカルチャー部の顧問である。

### 【理念】

学生には、英語や自文化、異文化を学ぶことによって異なる価値観に触れ、幅広い視野と国際感覚を兼ね備える人材になって欲しい。また排他的でなく違いを尊重し、フェアな精神で他者を受容できる心を持って欲しい。正解は一つではなく時や場所によって多様な正解が存在し得ることを認識し、その中で最適解を自ら探り、柔軟に対応する力を持って欲しい。

十分な自己肯定感を持ち、自分らしさを大切にしながら自身の考えを自らの言葉で自信を持って表現できる人材を英語教育を通して育成したい。また他者の考えにも耳を傾け、他者と協働することの大切さや楽しさもコミュニケーションの授業を通して伝えたい。さらに自分の可能性を広げ、自身の将来に向けて努力を重ねる心持ちの大切さを伝えたい。

教員は人生の少し先輩として、学び続けることによって自分の可能性が拡がり、歳を重ねても人生は奥深く楽しくなり得ることを見せる一見本でありたい。また学生の気持ちに寄り添い、彼らの後ろから見守りながら必要に応じて背中を押せる存在でありたい。様々な学生に対応できるよう、リメディアル教育学会等で授業運営の知恵や工夫を共有し、授業へ活かす。また「英語教育を通して自己肯定感を向上させる」という志を共にする国際学会 Psychology for Language Learning での研究活動を継続し、商大の教育へ活かす。

### 【方針・方法】

上記の理念を実現するために商科大学では、「学生の国際感覚を育てる」「留学生と日本人学生の交流を深める」「学生と教員の距離を縮める」「学生同士の協調性、連帯感を強める」という方針で教育活動を行っている。

\* 「学生の国際感覚を育てる」

- ・海外研修引率でUniversity of Pittsburgh at Bradford へ学生を引率し、現地の英語授業や文化体験と日本での14週の事前授業を通し学生の英語力と異文化対応力を育てる。
- ・Japan Visitの日本滞在中の活動へ学生を巻き込み、観光地の案内や学内での歓迎イベント、文化体験の場を作り、国際交流・異文化交流を楽しむ機会をつくる。
- ・学内イベント「英語カフェ」や「国際交流の広場」の開催により学内の英語環境を提供し、英語を使う楽しさを実感してもらおうと同時に英語学習への動機付けにつなげる。
- ・授業の一環としてTokyo Global Gatewayへ学生を引率し、英語を学ぶのではなく、英語でビジネスやサステナビリティについて学んだり、様々な体験を楽しむ機会をつくる。
- ・International Schoolとコラボレーションをし、双方の学生の合同プロジェクトを通し英語でコミュニケーションを楽しむ環境をつくり、英語学習への動機付けにつなげる。

\* 「留学生と日本人学生の交流を深める」

- ・留学生交流会や日帰り旅行を企画し、日本人と留学生の出逢いや交流の場をつくる。
- ・飯山祭での留学生屋台で各国の料理を販売し、出身国を紹介する機会をつくる。
- ・授業内で留学生に出身国についてプレゼンをしてもらい、日本人学生に留学生達や出身国について理解と交流を深める機会をつくる。

\* 「学生と教員の距離を縮める」

- ・全員の名前を覚え、授業中は必ず発言の機会を作り積極的に授業に参加してもらおう。
- ・授業前後や昼休みに学生からの相談やお喋りの時間を取り、日頃からコミュニケーションを大切にする。
- ・顧問をしている写真部の活動として写真展を企画し、部員との交流を深める。

\* 「学生同士の協調性、連帯感を強める」

- ・授業内でペア、グループワークの機会を作り、連帯感を持ってもらう。
- ・英語カフェ等のイベント開催時に学生スタッフを募り、教員側のお仕着せのイベントではなく学生たち自身が達成感を覚えられるような企画にし、協調性、連帯感を育てる。
- ・学外の国際関連施設へ引率時には学年や国籍を混ぜたグループを作り、課題の取り組みを通して相互理解や連帯感を育てる。

【評価・成果】

- ・本務校、非常勤共に授業評価は概ね良く、授業を通じ英語が好きになるとの声が多い。
- ・海外研修引率の事後評価が参加学生と海外提携校より共に各年とも高評価

【目標】

- ・オンライン留学生交流会へ日本人学生の参加を促し、交流を深める。(2020年)
- ・留学生へメンター制度を設け、学生同士の助け合いと交流の機会を作る。(2021年)
- ・British Hills等へ学生を引率し、英語学習、異文化理解への動機付けへつなげる。

